

の西部、近世秋田藩主佐竹氏の居城久保田城の外堀から五〇mほど南に位置する。今回の調査は、秋田県教育・福祉複合施設整備事業に伴うもので、調査面積は二二八五㎡である。

遺跡は、上級武士の屋敷が軒を連ねる参勤交代路に面する。築城時の現況を記

秋田・東根ひがしね小屋町遺跡こやまち

- | | | |
|---|---------------|----------------------------------|
| 1 | 所在地 | 秋田市中通二丁目 |
| 2 | 調査期間 | 二〇〇二年(平14) 十一月～二月、二〇〇三年
三月～四月 |
| 3 | 発掘機関 | 秋田県埋蔵文化財センター |
| 4 | 調査担当者 | 高橋 学・五十嵐一治ほか |
| 5 | 遺跡の種類 | 武家屋敷跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 江戸時代 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

録した「御国替当座御城下絵図」（秋田県公文書館蔵）によると、広大な湿地帯を埋めて立てて屋敷地を造成したことが確認できる。今回の調査でも、地盤沈下と嵩上げ造成を繰り返したことが確認できた。これは前後して実施された久保田城跡（外堀・中土橋部分）の発掘調査で確認した基本層序でも、共通する一連の自然堆積層を確認し、前記古絵図に描かれた当時の状況を再確認することができた。

検出した遺構は、掘立柱建物を構成する柱穴を中心に一二〇〇を超える。遺物は、陶磁器・木製品・金属製品など多岐にわたる。木簡は、土坑など遺構に伴うものの四点、造成土中から三点、計七点出土した。およその時期は、遺構内出土のものが一七世紀後半頃、遺構外出土のものがそれ以降と思われる。

8 木簡の釈文・内容

H6地区SK三五〇七

(1) $(72) \times 40 \times 6$ 019

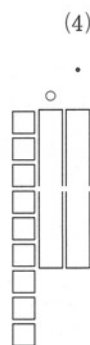
U1地区SKP-1028

(2) 上白斗入 (100)×15×2 051

H—三地区SX四二〇六

[illegible]

H 二地区 SX 四一〇一



(197)×54×6 051

H 6 地区造成土

(5) ・「。御用 細□

・「。御用 □□^{〔細カ〕}

(211)×(38)×8 081

SHA 4 地区

(6) □□ □□□□

157×18×4 051

(7) □□

(110)×(15)×4 081

(1) は下端が欠損し、側面は粗く面取りされている。釘穴があり、付札の類と思われる。

(2) は下端を尖らせているが、欠損している。何かに挿し込む形態で使用される木札の類と思われる。

(3) は上部に焼印が押される。釘穴があり、付札の類と思われる。

(4)(5) にも釘穴があり、付札の類と思われる。(4) の上端は左右両隅

を山形に切り落としていたようだが、作りが粗い。下端を尖らせており、何かに挿し込む形態で使用された可能性もある。

(6) は下端を尖らせている。何かに挿し込む形態で使用される木札の類と思われる。(7) は欠損により詳細不明。

9 関係文献

秋田県教育委員会『東根小屋町遺跡』(秋田県文化財調査報告書三八七、二〇〇五年)

(高橋 学〈秋田県弘田柵跡調査事務所〉・五十嵐一治〈秋田県教育庁〉)

